

# 第32回 医学教育指導者フォーラム開催要綱

趣 旨	大学医学部における医学教育の改善並びに教育研究組織の円滑な管理運営に資するため、医学教育について責任ある立場にある方の参加を得て、医学教育の様々な問題について情報の交換並びに討論を行う。
主 題	教育データに基づいたプログラム評価
主 催	公益財団法人 医学教育振興財団
期 日	令和3年7月14日（水）
開催方式	オンライン（Zoom ウェビナー）
参加者	国公立医科大学学長、医学部長、医学部附属病院長及び教務委員長等
参加費	無料
講 師	<b>Rodrigo B. Cavalcanti, MD MSc</b> (Associate Professor, Department of Medicine, Faculty of Medicine, University of Toronto / Director, HoPingKong Centre, University Health Network / Clinician Educator, Royal College of Physicians and Surgeons of Canada) 山田 剛史 関西大学教育推進部教育開発支援センター教授 春田 淳志 慶應義塾大学医学教育統轄センター准教授 奈良 信雄 日本医学教育評価機構常勤理事

## 日 程

13:00 ~	入室開始	進行) 医学教育振興財団事務局長	和氣 太司
13:15 ~ 13:25	開 会 <開会挨拶>	医学教育振興財団理事長	小川 秀興
13:25 ~ 13:40	<挨拶>	文部科学省高等教育局医学教育課長	伊藤 史恵
13:40 ~ 14:30	<趣旨説明>	名古屋大学総合医学教育センター教授	錦織 宏
13:40 ~ 14:30	講 演 <b>Learning Analytics in Medical Education</b>	Rodrigo B. Cavalcanti	
		司会) 名古屋大学総合医学教育センター教授	錦織 宏
14:30 ~ 15:00	<質疑応答>		
15:00 ~ 15:10	休憩		
15:10 ~ 16:50	総合討論「教育データに基づいたプログラム評価」	司会) 地域医療振興協会地域医療研究所 シニアアドバイザー	北村 聖
	話題提供 高等教育の観点から教学 IR について		山田 剛史
	話題提供 プログラム評価に関する諸理論・モデル		春田 淳志
	話題提供 日本医学教育評価機構（JACME）の医学教育評価における “教育プログラム評価”		奈良 信雄
16:50 ~	閉 会 <閉会挨拶>	医学教育振興財団常務理事	跡見 裕

## 教育データに基づいたプログラム評価（趣旨と背景）

名古屋大学総合医学教育センター  
錦織宏

2017年3月に世界医学教育連盟(World Federation for Medical Education、以下 WFME)から公式に認証を受けた日本医学教育評価機構(Japan Accreditation Council for Medical Education、以下 JACME)はここ数年、各大学の卒前医学教育改革を牽引してきたが、今後しばらくはその動きが継続すると予想する。医学教育学でしばしば引用される“Assessment Drives Learning(意識:試験があるから勉強する)”の文言が、医学生だけでなく医学部教員にも言える(JACME の認証評価があるので医学教育に関心を寄せる)ということが体感される今日、その認証評価の基準の一つである「プログラム評価(領域7)」に対して、医学教育を専門としない医学部教員もが関心を寄せるようになったことが、本年のフォーラムのテーマ設定の背景である。IR(Institutional Research)という聞きなれない言葉をどのように読み解くか、という教育現場にある課題についても本企画で取り扱う。

コロナ禍におけるオンライン開催ということで、フォーラムの構成は例年と変更した。海外(主に欧米)からの演者として、加国の Rodrigo Cavalcanti 先生に Learning Analytics(学習データ分析)の全体像をお話いただく。総合討論では、山田剛先生に高等教育の観点から見た教学 IR の概要と医学教育における経験を、春田淳志先生にプログラム評価の概要を、そして奈良信雄先生に JACME の認証評価におけるプログラム評価を、それぞれお話いただき、その後に全体討論を行う。フォーラム全体の時間は短縮している。

「意見に基づく医学教育からエビデンスに基づく医学教育へ」という提言を Best Evidence Medical Education という言葉を使って Harden がまとめてから 20 年近くが経った。「エビデンス」という言葉は医学教育研究におけるデータから導かれた知見を指すが、本企画の文脈に落とせば、教育機関内で適切にデータを収集・分析し、それに基づいてプログラム評価を行って、それをカリキュラムの改善に生かすことが、「エビデンスに基づく医学教育」ということになるであろう。自然科学分野の研究者にとっては、医学教育のデータが「ソフトサイエンス」のそれに見えてややもどかしく感じるかもしれないが、その感覚も含めて、本フォーラムが本邦の医学教育の「データに基づくプログラム評価」に関して建設的に議論をする際の土台となれればと願う。